



勝山市内スポーツ少年団で、唯一の女子バスケットボールチームの「村岡SPG」は、結成されてから10年が経ちました。村岡小学校に新採用で赴任してきた先生が奥越地区などでバスケットボールの審判をして活躍し、勝山にも女子バスケットチームを作りたいと中村修司監督(47)に相談をして、クラブが結成されました。

毎週、火・金・土曜日に村岡小学校第二体育館で、ドリブル、パス、シューートの基本練習を中心に1時間半の練習をしています。

### みんなで仲良くバスケットを楽しもう

村岡SPG

練習をしています。「練習試合では、日頃の練習の成果を披露することができるところかを試し機会として、選手に精一杯がんばるように激励しています。」との監督のことは。一昨年、大野の強豪チームが顔をそろえる奥越大会を勝ち抜き、県大会に出場するまでに力を付けてきています。そして、今年の目標は、「11月の県大会でベスト8に入る」と監督は言い切ります。

キャプテンの平 真子さん(6年生)は、「失敗をかばいあいながら、みんな

## 青春ing

### やってみて良かった職場体験

吉田 祥子さん(20) 鹿谷町志田



8月10日から18日までの9日間、福井県インターンシップ制度を活用し、勝山市役所の広報担当部署で研修を受けた吉田さんは、福井県立大学経済学部の3年生で勝山をこよなく愛し、勝山での就職を切に希望しています。

子ども議会の議長を務めたことのある吉田さんは、「子ども議会での質問内容調査で役所を訪問し、そこで丁寧な対応を受け、感心しました。それで役所の職場体験をすることに

決意しました。」と選択理由を語ってくれました。

職場体験を通して、「仕事は、大変ですが、生活にメリハリがつき、規則正しく過ごせるので、良いと思います。」と笑顔で話す吉田さんは、自信を感じました。

読書や洋服の買い物に興味とする吉田さんは、「三人娘の末っ子で、気は強いです。」とは、本人の弁。しかし、実際は気がかわいらしく、笑顔のすてきな女子大生でした。

# 出会い ふれあい

## すてきに人生



(写真左から) 島田しずえさん、長谷川つた子さん、伊藤公子さん

### 子どもたちと食を通じたふれあいを

成器西小学校調理師の皆さん

子どもたちと触れ合い、おいしい料理を作って子どもたちに喜んでもらいたいと思い調理師になった長谷川つた子さんと島田しずえさん、伊藤公子さんの3人は、8月3日に東京で行われた「学校給食調理員研究大会」で「学校・家庭・地域と連携した学校給食の推進」をテーマに、地場産物の利用などについて発表されました。

研究大会では全国から6校の発表がありましたが、成器西小学校以外の発表校は、ども給食がセンター方式だったとのこと。このため、長

谷川さんたちは、「学校で直に給食を作ることで、温かいものは温かいまま食べることができ、勝山の小学校の児童は幸せだ。」と感じたそうです。

大会では「市内の学校給食に関わる調理師たちが、わくわく合宿のような地域活動でボランティアとして料理を作り、地域活動をサポートしています。」との発表に、専門家の

かたがたから大きな関心と支持を得たそうです。

地場産物の利用では、「やはり新鮮であり、地元で貢献できるのがいいです。それに、子どもたちは野菜ができるまでの過程や、農業に従事されるかたとの交流、物の大切さについて理解し、その結果として、給食を残さず食べてくれます。」と3人も熱く、そして笑顔で話してくださいました。

今後の夢では、「地域のかたに学校給食のよさについて、もっとよく知ってもらいたいことです。」と3人も力強く語っていただきました。

### 第55回福井県消防操法大会ポンプ車の部

#### 3位入賞



8月5日に第55回福井県消防操法大会が福井県消防学校で開催され、勝山市消防団第6分団(村岡町)がポンプ車の部で3位入賞を果たしました。おめでとうございます。

なでプレーしている時、やっつけて良かったとつくづく思います。」と村岡SPGに所属しての感想を語ります。

練習を見に来ていたお母さんがたからは、「よその小学校の子どもと交流したり、学校外でも年齢に関係なく遊ぶようになりました。」「下の子の面倒見がよくまりました。」と入部しての喜びの声を聞かせてもらいました。

村岡SPGでは、一緒にバスケットを楽しむ女子を募集しています。練習の様子はいつでも見学できます。お気軽にお越しください。連絡やお問い合わせは、事務局の嶋田純代さん(☎88-13040)まで。

### がんばれ元気



### 好きな福祉 ボランティアで充実

近藤 里菜さん(11) 北郷町伊知地

近藤里菜さんは、この夏休みに、「夏休みジュニアボランティアスクール」に参加しました。

近藤さんが福祉のボランティアに興味を持ったのは、小学4年の時に福祉クラブに入部したのがきっかけでした。そして、お年寄りや障害者のかたと接して笑顔を見たり、「ありがとう」や「嬉しい」などと声をかけてもらううちに、福祉に対する興味が深まってきました。

そういう近藤さんは、日常においても、自宅のおばあちゃんとお話するのが大好きで、昔の遊びや戦争の話などをたくさんするそうです。「おばあちゃんの話は難しいけれど、聞いていてとても楽しいです。」と笑顔で話してくれました。

近藤さんの将来の夢は、「福祉の仕事につくこと。お年寄りのお世話をしてお年寄りと接していきたい。」と、はきはきと応えてくれました。